

3. 石井方式はこうして発見した

石井方式の発見のキッカケ

終戦直後、私は、高等学校で英語を担当していたことがあります。その時、数人のアメリカ人と

親しく交際する機会を持ったのですが、彼らの書く文章に、意外なくらい綴りに誤りのあることを知りました。

やはり、その頃、まだ三つにもならない長男が漢字を読む事実を、私は発見しました。それは、私の読んでいる「国語教育論」という本の「教育」という字を指して、「キョウ、イク」と読んだのです。私はその時、思わず自分の耳を疑ったほど驚きました。

でも、どうして、二歳の子が、「教育」という字を読んだのでしょうか。調べてみますと、その一か月ほど前に、「教育音楽」という本の書名を指して、しきりに、何かと、妻に尋ねたことがあった、ということが判りました。妻は、その時、なにげなく「キョウイクオンガク」と読んでやったそうです。その字を二歳の子に教えてやったとすれば、それはただそれだけのことであり、その時だけのことだったのです。

しかし、子供は、ただ一回だけの機会で「教育」という字形が、「キョ

ウイク」という音を表す文字であることを覚えたのです。

私はこの時、漢字の字形の複雑さは、漢字を覚えるために、何の妨げにもならないのではないかと、ということを感じました。それと、英語の綴りの複雑さを思い合せて、「日本の国語教育は、間違っていることをしているのではないかと、ふと思ったのです。「山・川・花・月……」と、「mountain, river, flower, moon……」とを比べてみる時、漢字のほうが難しいと言える理由が、一体どこにあるだろうか。彼らが、一年生から「mountain, river……」を学んでいるなら、わが国でも、一年生が「山・川……」を学んでよいのではなかろうか。……こんな疑問が湧いたのです。

第一原則発見

昭和26年、当時私の住んでいた東京都八王子市に、教育委員会が生まれ、私は、その指導室に、主事として勤務することを命ぜられました。

市内にある高校・中学・小学校を訪問して、授業を見、先生方を指導し、助言を与えるのが仕事です。

こうして、私は、初めて小学校教育の実際を、自分の目で見る事が出来るようになったのです。そこで私が、小学校の先生方から訴え

られた悩みというのは、「子供たちの漢字の力が弱いこと」、そのため、「社会科や理科の学習さえ満足に出来ないこと」「これを解決するために、うまい漢字の指導法はないだろうか」ということでした。

そこで、先生方のこの悩みを解決しようと、考えた末の案が、今、石井方式の「第一基本原則」となっている、「社会で、一般に漢字で書いている言葉は、最初から漢字で書いて教えるべきである」という考えだったのです。私は、この考えを多くの先生方に訴え、あるいは、勧めてみました。しかし、先生方には、この考えは机上の空論としか考えられなかったようでした。だれ一人として、実行してみようと申し出てくれる先生はいませんでした。

発奮して小学校教師となる

確かに私の考えは、机上の論でした。頭の中で考え出したものです。それに私は、実際に小学生を指導した経験がありません。それで、自分の考えが正しいと信じる私は、小学校の教師になり、実際に子供を指導して、その正しいことを証明しようとするようになりました。

新しい学年を迎えると、私は、せっせと市内の小学校の一年生の

教室を見て回りました。指導主事ではなくて、指導され主事になったのです。こうして私は、一年生を担当する準備を始めたのです。

帰宅すると、ピアノの練習も始めました。これは一年生の担任として、絶対に必要な技術なのですから……。幼稚園に通う長男と、二歳になる長女と、バイエルの練習を一緒に始めましたが、いくら頑張っても、子供たちにだんだんと引き離されていく悲しさを、しみじみと味わったこともありました。

翌年、わが子の小学校入学とともに、私は、新宿区の淀橋第一小学校の教師となり、待望の一年生を受持つことになりました。

コラム

部首 翟

佳(鳥)と羽との会意字で、“羽の美しい鳥”が本義。部首として“きらきらと美しく輝く”“羽をぱたぱたさせる”こと。

【曜】 美しい意味の翟と日との会意形声字。“日の光がきらきらと美しく輝く”。日曜・月曜などの曜は“空に輝く天体”で、太陽、月、火星……土星などを表す。